

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣先機関等利用マニュアル

2010 年 11月 1 日

派遣者氏名（専門分野）	■■■■■■■■	（西洋史学）
-------------	----------	--------

派遣期間	2010年 4 月 23 日 ～ 2010年 10 月21 日
------	---------------------------------

派遣研究機関

国	都市	訪問機関
フランス	パリ	高等研究院 国立図書館

利用マニュアル（利用申請に必要な書類、手続き、リサーチ方法を記入）

2. 国立図書館

フランス国立図書館は、複数の施設によって成り立っており、それぞれ利用方法が異なっている。現在、西洋・東洋の古文書、古銭、画像資料など貴重資料を収蔵するリシュリュール館は、1996年にフランソワ・ミッテラン館が開館するまで本館として使用されていた施設である。

リシュリュール館の利用は研究者などの専門家に限られており、閲覧室へ入る前に、司書による個人面談を受けて使用許可を得なければならない。外国人の場合は身分証明（パスポートなど）、フランスでの住所（ホテルなど）を準備する。修士課程学生の場合は、学生証、指導教員による証明書、閲覧希望資料のリスト、博士課程学生の場合は、学生証、指導教員による証明書を合わせて用意する。入館証は3日用（8ユーロ）、15日用（45ユーロ）、1年用（60ユーロ）とあり、学生には割引がある。

西洋の古文書の閲覧室では、閲覧席に空きがあれば入室できる。（マイクロフィルム用席、コンピュータ使用席などがある。）入館証を入口の係員に提示し、座席札と閲覧室外にあるロッカーの鍵、退室時に提出する用紙を受け取る。リサーチに必要なもの以外はすべてロッカーに入れてから入室する。閉架式なので、所定の用紙に閲覧を希望する史料のコードなど必要事項を記入し、座席札と共に司書に手渡す。自席で待機していると、司書が史料を運んでくる。

閲覧が終われば、資料を司書に返却する。翌日も同じ資料を閲覧したい場合は、取り置き依頼の用紙と共に資料を司書に手渡す（1週間まで取り置き可能）。

資料の複写を希望する場合は、同館の別棟にある複写部門へ行き手続きをする。

（なお、2010年4月から2017年までの予定で、リシュリュール館では改修工事が行われているため、この間の施設利用は通常と異なる場合があると思われる。）